

【安藤昌益研究の最前線（その9）】

安藤昌益の真営道医学を伝承した江戸の町医・
川村真斎による処方収集書『真斎聚方』の処方群
「〔1〕～〔10〕」（その「出典書目」一覧を含む）
および「名家方選之部〔A〕～〔F〕」における
処方群の「出典」の考証と考察——【I】『真斎聚方』
〔No.37～67〕
——真斎の「筆写・抄出方法」から『真斎謾筆』と
稿本『自然真営道』との内容的同一性について
考える

和田耕作

（KOSAKU WADA）

.....
◎『真斎聚方』における「出典書目」一覧 および

『観聚方要補』・『雑病広要』の「出典書目」との比較表◎

——第1稿・・『真斎聚方』〔No.37～No.67〕

.....

▼『観聚方要補』（多紀元簡著、文政二年〔1819〕版）

- ・『近世漢方医学書集成』（45～47）に収録〔文政版〕。
- ・安政四年〔1857〕版あり（『観聚方要補』安政版刊行委員会編『観聚方要補』〔安政版〕、医聖社、平成二十五年）。
- ・「原典から直接厳密に引用し、出典を明記する。」、「処方集としての完成度において、今日これを越えるものはない。」（小曾戸洋『日本漢方典籍辞典』）

▼『雑病広要』（多紀元堅著、安政三年〔1856〕）

- ・『近世漢方医学書集成』（48～52）に収録。
- ・「資料に用いられた医書は316種に及び、・・・出典を明示し、引用は正確で・・・江戸医学館の高い水準を示している。」（小曾戸洋、同前）

-
- ・『真斎聚方』における川村真斎の方法は、上記江戸医学館の多紀氏と同様に原典から直接引用し、出典を明記する方法と酷似している。〔和田〕
-

『真斎聚方』	文政版『観聚方要補』	『雑病広要』
〔真斎、1852没〕	〔1819刊〕	〔1856刊〕

.....

〔Ⅰ〕・初出・【『真斎聚方』〔No.37～No.67〕】

01～03

- | | | |
|------------------|---|---|
| ・『名家方選』〔1781刊〕 | × | × |
| ・『続名家方選』〔1805刊〕 | × | × |
| ・『名家方選三編』〔1807刊〕 | × | × |

.....

〔Ⅰ〕・初出・【『真斎聚方』〔No.37～No.67〕】

01～10

- | | | |
|-----------|---|---|
| ・「千金要方」 | ○ | ○ |
| ・「瑞竹堂経験方」 | ○ | ○ |
| ・「普濟本事方」 | ○ | ○ |

・「嚴氏濟生方」	○	○
・「和劑局方」	○	○
・「万病回春」	○	○
・「証治準繩」	○	○
・「金匱要略」	○	○
・「寿世保元」	○	○
・「外台秘要」	○	○

.....

11～20

・「是齋百一選方」	○	○
・「濟生全書」	○	○
・「聖濟總録」	○	○
・「外科正宗」	○	○
・「蘭室秘蔵」	○	○
・「三因方」	○	○
・「衛生宝鑑」	○	○
・「直指方」	○	○
・「痧脹玉衡書」	○	×
・「救偏瑣言」	×	×

.....

21～30

・「薛立齋十六種」〔薛己〕	△	△
・「脾胃論」	○	○
・「活人事証方」〔安政版○〕	×	○
・「医学入門」	○	○
・「婦人大全良方」	○	○
・「魏氏家蔵方」	○	○
・「楊氏家蔵方」	○	○
・「弁惑論」	○	○
・「古今医鑑」	○	○
・「温疫論」	○	×

.....

安藤昌益の真営道医学を継承した川村真斎（1785～1852）による処方収集書『真斎聚方』（内藤記念くすり博物館蔵本）は、浩瀚な著作である。

本稿では、本誌「PHN」33号に引き続いて、No.41以降の処方群（No.41～No.67）と、それらに関連すると思われる『名家方選』三部作の処方群（No.46～No.67）について、できる限り「出典」の考証を行い、考究してみよう。

しかし、『真斎聚方』の膨大な処方群の「出典」の考証は、とうてい一人で短期間にできるようなものではない。以下においては、無理をしない範囲での考証にとどめることにしたことをお断りしておきたい。

むしろ、私は、『真斎聚方』における「出典書目」だけでも通覧しておくことは、今後真斎の方法と稿本『自然真営道』との内容的関連性について考察する場合において、そのことに意義と価値があると考え、この作業の続行を決意した次第である。

なお、本誌「PHN」33号において考証した処方群（No.37～No.40）とその「出典書目」一覧をも収載して、なるべく『真斎聚方』の処方群の全体像を通覧できるように配慮した。

今回は、その第1回目であり、今後も続稿を予定している。

●【出典】の確認のための文献一覧、その他●

・「出典」が明示され、考証されている中国古典医学書の類は、おもに和田文庫本の中文医学書などを使用し、できる限りその「原文」を参照して考証を行った。しかし、真斎は、主に和刻本を参照しているものと思われるので、底本による多少の誤差は覚悟のうえである。

・その他、京都大学・富士川文庫、早稲田大学・古典籍総合データベースなどのWeb公開資料などによった。

・『重訂古今方彙』（古賀通元編著、文化五年〔1808〕版）〔和田文庫蔵本による〕

「『重訂』本は、引用書目として六十三種の中国医書を示し、全一八〇〇方を収録する。・・・『万病回春』を出典とする処方最も多く、・・・一般医家の愛用する第一の処方集となり、・・・常用処方集として、今日にも強い影響を及ぼしている。」（小曾戸洋『日本漢方典籍辞典』）

・『名家方選』

（山田元倫〔浅井南臯〕維亨撰、中山泰成元吉校、天明元年刊

〔一七八一〕、『皇漢医学叢書、第十二冊』〔和田文庫蔵本〕所収

による）

浅井南阜（山田元倫、1760～1826）には、他に『名家灸選』（文化二刊〔一八〇五〕）、『微瘡約言』（享和二年刊〔一八〇二〕）、『養生録』（文化十四年刊〔一八一七〕）などの著書がある。

・『続名家方選』

（村上等順〔名は図基〕編著、文化二年刊〔一八〇五〕、『皇漢医学叢書、第十二冊』（和田文庫蔵本）所収による。なお、一部分については、『皇漢医学叢書、第十二冊』に誤植などがあるため、京都大学・富士川文庫本を参照した。）

・『名家方選三編』

（平井主善庸信撰、浅井子顕惟良校、文化四年刊〔一八〇七〕、京都大学図書館・富士川文庫蔵本による）
平井庸信には、他に『続名家灸選』（文化四年刊〔一八〇七〕）、『名家灸選三編』（文化十年刊〔一八一三〕）がある。浅井南阜の『名家灸選』とともに、『名家灸選』の三部作は、「のちの灸治療に影響を及ぼした」（小曾戸洋・天野陽介『針灸の歴史』）という。

◎・I. —〔1〕・◎

▼・〔1〕・「No.37～39」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ・〔以下の処方群は「PHN」33号において、すでに考証済。〕
- ・書名の前の「◎」は初出。
- ・「△・」は、今号での「出典」追補の部分である。

- ①〇 西州続命湯（No.37）（九味）……………◎「千金」〔千金要方〕
- ②〇 小続命湯（No.37）（十二味）……………「千金」
- ③〇 勻（いん）気散（No.37）（十二味）……………
……………◎「瑞竹」〔瑞竹堂経験方〕

△・『瑞竹堂経験方』（巻一）【諸風門】からの記載である。

- ④〇 白薇湯（No.37）（四味）……………◎「本事」〔普濟本事方〕

- ⑤○ 八味順気散 (No.38) (八味) ◎「済生」〔嚴氏済生方〕
 - ⑥○ 烏藥順気散 (No.38) (十味) ◎「局方」〔和剤局方〕
 - ⑦○ 三生飲 (No.38) (四味) 「局方」
 - ⑧○ 摂生飲 (No.38) (七味) ◎「回春」〔万病回春〕
 - ⑨○ 清陽湯 (No.38) (十味) ◎「準繩」〔証治準繩〕
 - ⑩○ 犀角升麻湯 (No.38) (九味) 「本事」
 - ⑪○ 千金 三黄湯 (No.39) (五味) ◎「金匱」〔金匱要略〕
 - ⑫○ 清熱導痰湯 (No.39) (十二味) ◎「寿世」〔寿世保元〕
 - ⑬○ 倉公 当帰湯 (No.39) (六味) 「千金」
 - ⑭○ 偏風 (No.39) (四味) ◎「外台」〔外台秘要〕
 - ⑮○ 朮附湯 (No.39) (三味) 「金匱」
 - ⑯○ 滋潤湯 (No.39) (十味) 「回春」
-

◎・I. — [A] ・「外因病」【中風】◎

◇・「名家方選之部 [A] 」 . . . (No.39～40) ・◇

▼ 『真斎聚方』「名家方選之部 [A] 」の処方群 (No.39～40)

における『名家方選』三部作〔「外因病」【中風】〕からの
処方群について——その「出典」の考証と考察

.

・▼ [この内容については『PHN』33号 (2018年9月)

を参照のこと] ▼ . .

.

◎・I. — [2] ・◎

▼ [2] ・「No.41～42」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

①○ 十味香薷飲 (No.41) (十味) . . . ◎「百一」〔是斎百一選方〕

・『是斎百一選方』(巻七、第九門)【傷寒・感冒・中暑】の項

の「十葉香薷飲」に主治文・薬物が酷似している。

・「宝鑑名消暑十全散」と、真斎のものと思われる文がある。

『衛生宝鑑』（補遺）に「消暑十全飲」（十味）がある。

②○ 加味香薷飲（No.41）（五味）・・・・・・「済生」〔嚴氏済生方〕

・『嚴氏済生方』（巻一）【諸瘧論治】の項からの記載である。

③○ 春沢湯（No.41）（八味）・・・・・・◎「済生」〔済生全書〕

・『済生全書』からの記載である。『古今方彙』により確認。

④○ 外台 理中丸（No.41）（五味）・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』（巻六）【霍乱吐痢方】の項からの記載である。

原文には「干姜」があり、「六味」である。

⑤○ 理中安蚘湯（No.41）（五味）・・・・・・「回春」〔万病回春〕

・『万病回春』（巻二）【傷寒 附傷風】より記載。後段「傷寒・・」の文は省略。

⑥○ 附子理中円（No.42）（五味）・・・・・・「局方」〔和剂局方〕

・『和剂局方』（巻五）【治痼冷 附消渴】より記載。服薬文に少しの異動と省略あり。末尾の小文字文「口噤則幹開灌之」は、真斎によるもの。

⑦○ 扁豆湯（No.42）（四味）・・・・・・「外台」

・『外台秘要』（巻六）【霍乱吐痢方】の項からの記載である。

⑧○ 霍乱転筋 洗方（No.42）・・・・・・「済生」〔嚴氏済生方〕

・『嚴氏済生方』（巻二）【霍乱論治】の項からの記載である。
・原文には「洗方 治霍乱転筋」とある。

⑨○ 二勝散（No.42）（二味）・・・・・・◎「聖済」〔聖済総録〕

・『聖済総録』（巻三十九）【霍乱門】からの記載である。

⑩○ 厚朴人参湯（No.42）（六味）・・・・・・「外台」

・『外台秘要』（巻六）【霍乱心腹痛方】の項からの記載である。

⑪○ 茯苓安心湯（No.42）（六味）・・・・・・「外台」

・『外台秘要』（巻六）【上焦熱及寒吐痢腸鳴短気方】の項からの記載である。

⑫○ 加減茹〔薷〕苓湯（No.42）（九味）・・・・・・「寿世」〔寿世保元〕

・『寿世保元』（巻三）【霍乱】の項より記載。服薬文の過半以上を省略。

以上は、おおむねそれぞれ原文どおりの記載であることがわかる。

一部分、服薬文の後半などには省略がみられるが、問題のない範囲であろう。ここでのテーマは、【傷寒 附傷風】
【治瘧冷 附消渴】【霍乱】などである。

◎・Ⅰ．－〔3〕・◎

▼〔3〕・「No.43～44」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

・「▲」は、原文に「出典」の表示なきもの。その右の〔『万病回春』〕、
〔『千金要方』〕などは、和田による考証である。

- ①○ 治遊風行走無定 (No.43) (九味)・・・「千金」〔千金要方〕
- ②○ 独活寄生湯 (No.43) (十五味)・・・「千金」
- ③○ 大防風湯 (No.43) (十三味)・・・◎「外正」〔外科正宗〕
・『外科正宗』(巻三)【附骨疽主治方】からの記載である。
- ④○ 疎経活血湯 (No.44) (十六味)・・・「▲」〔『万病回春』〕
・『万病回春』(巻五)【痛風】からの記載である。
- ⑤○ 犀角湯 (No.44) (九味)・・・「▲」〔『千金要方』〕
- ⑥○ 当帰拈痛湯 (No.44) (十六味)・・・「▲」◎〔『蘭室秘蔵』〕
・『蘭室秘蔵』(巻中)【腰痛門】には「拈痛湯」とあり、主
治文が一致しない。薬物の「蘘」のところに「準繩無」と
真斎の注があるが、原文にも「黄蘘」はない。なお、浅田
宗伯の『勿誤藥室方函』にも「黄蘘」はない。
- ⑦○ 附子六物湯 (No.44) (六味)・・・「外正」
・『外科正宗』(巻三)【附骨疽主治方】からの記載である。
○ 〔同上〕・・・◎「三因」〔三因方〕
- ⑧○ 続断円 (No.44) (九味)・・・「本事」〔普濟本事方〕
・『普濟本事方』(巻三)【風寒湿痺白虎歴節走注諸病】の項
より記載。服薬文の一部分省略あり。

●・【考察2】・●

以上は、おおむねそれぞれ原文どおりの記載であることがわかる。

一部分、服薬文の後半などには省略がみられるが、問題のない範囲であろう。ここでのテーマは、【骨疽】【痛風】
などである。

▼ [4] ・「No.45～46」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ①○ 独活湯 (No.45) (九味) 「聖濟」〔聖濟総録〕
・『聖濟総録』(巻十)【諸風門】からの記載である。
- ②○ 芎附散 (No.45) (十味) 「本事」〔普濟本事方〕
・『普濟本事方』(巻三)【風寒湿痺白虎歴節走注諸病】の項
より記載。服薬文の一部分省略あり。
- ③○ 開結舒経湯 (No.45) (十二味) 「回春」〔万病回春〕
・『万病回春』(巻四)【麻木】の項より記載。服薬文の一部分
を省略している。
- ④○ 獨痺湯 (No.45) (六味) 「濟生」〔嚴氏濟生方〕
・『嚴氏濟生方』(巻一)【五痺論治】の項からの記載である。
- ⑤○ 五痺湯 (No.45) (五味) 「局方」〔和劑局方〕
・『和劑局方』(巻一)【治諸風】の章より、ほぼ原文のどおり
の記載である。
- ⑥○ 酸棗人湯 (No.46) (五味) 「聖濟」

●・【考察3】・●

以上は、おおむねそれぞれ原文どおりの記載であることがわかる。
一部分、服薬文の後半などには省略がみられるが、問題のない範囲であろう。ここでのテーマは、前項に関連してい
る【治諸風】【風寒湿痺白虎歴節走注諸病】などである。

◇・「名家方選之部 [B] 」 (No.46) ・◇

- ▼ 『真齋聚方』「名家方選之部 [B] 」の処方群 (No.46)
における『名家方選』三部作〔「外因病」【歴節痛風】など〕
からの処方群について——その「出典」の考証と考察
-

①○ 療風毒疼痛甚者方 (No.46) 「三味」 『続名家方選』

「外因病」【歴節痛風】 (p.80)

・原文の「右三味」が「右四味」となっているのは、転記ミスであらう。

・末尾に「疑脱甘草字」との、真斎の文がある。

②○ 療風毒劇痛方 (No.46) 「一味」 『続名家方選』

「外因病」【歴節痛風】 (p.80)

③○ 治四肢疼痛難屈伸〔者〕方 (No.46) 「一味」 . . 『続名家方選』

「外因病」【歴節痛風】 (p.80)

④○ 治痛風方 (No.46) 「八味」 『名家方選三編』

「外因病」【痛痺】 (No.48)

⑤○ 又方 (No.46) 「六味」 『名家方選三編』

「外因病」【痛痺】 (No.49)

⑥○ 又方 (No.46) 「一味」 『名家方選三編』

「外因病」【痛痺】 (No.49)

⑦○ 治痛風方 (No.46) 「九味」 『名家方選』

「外因病」【痛風】 (p.18)

⑧○ 又方 治易症 (No.46) 「三味」 『名家方選』

「外因病」【痛風】 (p.18)

⑨○ 治痛解毒飲 (No.46) 「七味」 『続名家方選』

「外因病」【歴節痛風】 (p.79)

・村上国基による按文も原文のとおりである。

⑩○ 白朮湯 (No.46) 「十一味」 『続名家方選』

「外因病」【歴節痛風】 (p.79)

・原文では、白朮湯は【歴節痛風】の項の最初にある。

●・【考察4】・●

『名家方選』三部作における各項目〔「外因病」【歴節痛風】など〕のすべての処方群が原文どおりの内容で記載されている。

やはり、前出のⅠ.－〔2〕～〔4〕のテーマを受けての記載であろう。

▼ [5] ・「No.47～48」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

-
- ①○ 清心抑胆湯 (No.47) (十六味)「回春」〔万病回春〕
・『万病回春』(巻四)【癰症】からの記載である。
- ②○ 沈香天麻湯 (No.47) (十二味)◎「衛生」〔衛生宝鑑〕
・『衛生宝鑑』(巻九)にある処方であるが、「主治文」が一致していない。
- ③○ 抑肝散 (No.47) (七味)◎「直指」〔直指方〕
- ④○ 遠志円 (No.47) (八味)「本事」〔普濟本事方〕
・『普濟本事方』(巻二)【心小腸脾胃病】の項より記載。
- ⑤○ 大定心湯 (No.47) (十五味)「千金」〔千金要方〕
- ⑥○ 寧志円 (No.48) (十一味)「直指」
- ⑦○ 寧志膏 (No.48) (三味)「局方」〔和剤局方〕
・『和剤局方』(巻五)【治諸虚】の項からの記載である。
・末尾に「百一選方寧志元有当菖茯」と、真斎のものと思われる文がある。
- ⑧○ 茯神散 (No.48) (九味)「本事」
・『普濟本事方』(巻二)【心小腸脾胃病】の項より記載。
・「主治文」は、前出の「④○遠志円 (No.47)」に同じ。
- ⑨○ 千金 七気湯 (No.48)「準繩」〔証治準繩〕
○ 又 千金 七気湯 (No.48) (十二味)「外台」〔外台秘要〕
- ⑩○ 半夏麻黄丸 (No.48) (二味)「金匱」〔金匱要略〕
・『金匱要略』「驚悸吐 . . . 瘀血第十六」からの記載である。
- ⑪○ 薯蕷湯 (No.48) (十六味)「千金」
・「此方見虚劳」と、真斎による文がある。これは、後出の
【薯蕷湯 (No.56) (十六味)「千金」】を指す。
-

● ・【考察5】 ・ ●

- ②「沈香天麻湯」の「主治文」の不一致については不明である。
ここでのテーマは、【癰症】【心小腸脾胃病】【治諸虚】などである。
-

▼ [6] ・「No.49～50」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

-
- ①○ 枳実大黄湯 (No.49) (十味) ・ ・ ・ ◎「玉衡」〔痧脹玉衡書〕
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
- ②○ 必勝湯 (No.49) (九味) ・ ・ ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
- ③○ 荊芥湯 (No.49) (六味) ・ ・ ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
・「食不消」「心煩熱」などの下の「加・去」文は、原文では、
小文字でわかりやすいが、ここでは文字の大きさが同じで
読みにくい。
・末尾の「水二・ ・ ・」の服薬文が省略されている。
- ④○ 防風散痧湯 (No.49) (六味) ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
・原文では、この処方は巻頭にある。各処方の記載は順不同
である。
・「頭面腫」「腹脹」などの下の「加・去」文は、原文では、
小文字でわかりやすいが、ここでは文字の大きさが同じで
読みにくい。
・末尾の「水二・ ・ ・」の服薬文が省略されている。
- ⑤○ 防風金勝湯 (No.50) (十一味) ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
- ⑥○ 薄荷湯 (No.50) (六味) ・ ・ ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
- ⑦○ 活絡透毒飲 (No.50) (十一味) ・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・ ◎「急偏鎖言」〔『救偏瑣言』〕
・『救偏瑣言』(附巻)【瑣言備用要方】からの記載である。
・『救偏瑣言』には、「甘草」がなく「十味」である。末尾に
「外加地龍」とある。ここでは「早稲田大学本」によった。
- 〔同上〕 (No.50) (十一味) ・ ・ ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。
・『痧脹玉衡書』にも、「甘草」がなく「十味」である。
- ⑧○ 射干兜鈴湯 (No.50) (十一味) ・ ・ ・ ・ ・ 「玉衡」
・『痧脹玉衡書』(巻下)【玉衡備用要方】からの記載である。

・原文には、「射于兜苓湯」とある。末尾の「加童便」も原文にある。

●・【考察6】・●

ここには、『痧脹玉衡書』からの記載が集中的になされている。

『痧脹玉衡書』は、『観聚方要補』（文政版）には、引用されているが、『雑病広要』には引用書目がない。

『救偏瑣言』は、『観聚方要補』（文政版）・『雑病広要』ともに、引用書目がない。

ここでのテーマは、「食不消」「心煩熱」「頭面腫」「腹脹」などである。

◎・I. - [7] ・◎

▼ [7] ・「No.51～57」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

-
- ①○ 竹葉飲 (No.51) (七味) 「外台」 [外台秘要]
・『外台秘要』（卷十三）【骨蒸方】の項からの記載である。
- ②○ 知母茯苓湯 (No.51) (十二味) 「聖濟」 [聖濟總録]
- ③○ 樂令黃耆湯 (No.51) (十二味) 「外台」
- ④○ 十全大補湯 (No.51) (十味) 「局方」 [和劑局方]
・『和劑局方』（卷五）【治諸虛】の項からの記載である。
- [同上] 「正宗」 [外科正宗]
・『外科正宗』（卷一）【潰瘍主治方】の項からの記載である。
・「此藥補虛損大有神効 即八珍湯加耆桂也」と、真齋のものと思われる文がある。
- ⑤○ 八珍湯 (No.52) (八味) ◎「薛己」 [薛立齋十六種]
○ [同上] 「正宗」
・『外科正宗』（卷一）【潰瘍主治方】の項からの記載である。
・「即四君四物湯合方」と、真齋のものと思われる文がある。
- ⑥○ 八物湯 (No.52) (八味) [前方⑤「八珍湯」の類似処方]
・「即於前方中去參加耆」と、真齋のものと思われる文がある。
- ⑦○ 補中益氣湯 (No.52) (八味) 「回春」 [万病回春]
・『万病回春』（卷二）【内傷】の項からの記載である。
- [同上] ◎「脾胃論」 [李東垣『脾胃論』]
・『脾胃論』（卷中）からの記載である。
・「正宗有 麥門冬 六分 五味子 五分」と、真齋のもの

思われる文がある。この薬物の記述は、『外科正宗』の原文
どおりであり、真斎はこれによって記している。ちなみに、
『外科正宗』では、「十全大補湯」「八珍湯」の次に、「補中
益気湯」が記載されている。

- ⑧○ 人参紫苑散 (No.52) (十味) . . . ◎「事証」〔活人事証方〕
- ⑨○ 聖済 人参養栄湯 (No.52) (十味) . . . 「聖済」
- ⑩○ 局方 人参養栄湯 (No.52) (十二味) . . 「局方」
 - ・『和剂局方』(巻五)【治痢冷】の項からの記載である。
 - ・「○便精遺泄 加龍骨 一兩 欬嗽 加阿膠 甚妙」と、
真斎のものと思われる文がある。
- ⑪○ 竹葉黄金湯 (No.53) (九味) 「千金」〔千金要方〕
- ⑫○ 生姜甘草湯 (No.53) (四味) 「金匱」〔金匱要略〕
 - ・『金匱要略』「肺萎 . . . 脈証治第七」からの記載である。
- ⑬○ 秦艽〔朮〕龜甲飲〔散〕 No.53) (六味) . . 「衛生」〔衛生宝鑑〕
 - ・『衛生宝鑑』(巻五)【勞倦 . . 有熱】の項からの記載である。
- ⑭○ 秦艽〔朮〕扶羸湯 (No.53) (九味) . . ◎「入門」〔医学入門〕
 - ・『医学入門』(巻七)「通用古方詩括」【勞瘵】の項からの記載
である。
- ⑮○ 大半夏湯 (No.53) (九味) 「外台」
 - ・『外台秘要』(巻十六)【肉極寒方】の項からの記載である。
- ⑯○ 逍遙散 (No.53) (六味) 「局方」
 - ・『和剂局方』(巻九)【治婦人諸疾】の項からの記載である。
 - ・「加牡丹皮 . . 加味逍遙散」「○一方 加知母 . .」「○又方
正宗有 . .」「○又一方 . . 之九藥也」と、真斎のものと思
われる文がある。
- ⑰○ 補肺人参湯 (No.54) (十一味) 「聖済」
- ⑱○ 皂莢丸 (No.54) (一味) 「金匱」
 - ・『金匱要略』「肺萎 . . . 脈証治第七」からの記載である。
- ⑲○ 黄耆湯 (No.54) (十味) 「外台」
- ⑳○ 又黄耆湯 (No.54) (八味) 「外台」
 - ・『外台秘要』(巻十七)【虚勞裏急方】の項からの記載である。
- ㉑○ 黄耆建中湯 (No.54) (七味) 「千金」
 - ・「深師治 . . .」の小文字文もすべて原文のものである。
- ㉒○ 事証方 黄耆建中湯 (No.54) (十七味)
 - . . . 「事証方」〔活人事証方〕
- ㉓○ 滋陰降火湯 (No.54) (十一味) 「回春」

・『万病回春』（巻四）【虚劳】の項からの記載である。

②4○ 肘後 癩肝散 (No.55) (一味)「金匱」

・『金匱要略』「肺萎 . . . 脈証治第七」からの記載である。

・原出典は、『肘後備急方』。

②5○ 飲酒房劳 . . 令人錯謬失常方 (No.55) (十味) . . 「外台」

・『外台秘要』（巻三十一）【飲酒積熱方】の項からの記載である。
原出典は、『千金要方』。

②6○ 酸棗湯 (No.55) (五味)「金匱」

・『金匱要略』「血痺 . . . 脈証并治第六」からの記載である。

○ 〔同上〕「外台」

②7○ 千金 酸棗湯 (No.55) (八味)「千金」

②8○ 大建中湯 (No.55) (十一味)「千金」

②9○ 大竹葉湯 (No.55) (十八味)「外台」

・『外台秘要』（巻十七）【病後不得眠方】の項からの記載である。

③0○ 小品 黄耆湯 (No.55) (十味)「外台」

・『外台秘要』（巻十七）【虚劳小便不利方】の項からの記載である。
原出典は『小品方』。

③1○ 又小品 黄耆湯 (No.55) (八味)「外台」

・「有寒加厚朴 二両」と、真斎のものと思われる文がある。

③2○ 丹参煮散 (No.56) (十七味)「外台」

・『外台秘要』（巻十六）【筋实極方】の項からの記載である。

③3○ 竹葉湯 (No.56) (十四味)「外台」

・『外台秘要』（巻三）【天行虚羸方】の項からの記載である。

ただし、原文には「崔氏」とあり、「竹葉湯」の名はない。

・小文字文・末尾文も原文によるもの。

③4○ 青蒿散 (No.56) (十朮味)「事証」

③5○ 薯蕷湯 (No.56) (十六味)「千金」

・「前出」あり。 . . 【薯蕷湯 (No.48) (十六味) . . 「千金」】

しかし、ここでは「右十六味」以降の服薬文などがある。

③6○ 牛膝湯 (No.56) (十二味)「外台」

・『外台秘要』（巻十六）【筋虚極方】の項からの記載である。

③7○ 止熱極湯 (No.56) (十一味)「外台」

③8○ 内補黄耆湯 (No.57) (十六味)「外台」

③9○ 茯苓補心湯 (No.57) (十五味) . . ◎「大全」〔婦人大全良方〕

・末尾に「一方除木香」と、真斎のものと思われる文がある。

●・【考察7】・●

ここでのテーマは、【骨蒸】【治諸虚】【治瘡冷】【虚劳】などである。

小曾戸洋氏らによると『活人事証方』の写本類は、「通常流布していない」ものであるという（日本医史学雑誌、53巻1号、2007）。

確かに『観聚方要補』（文政二年〔1819〕版）の引用書目にはあげられていない。『雑病広要』の引用書目には見られる。

『観聚方要補』（安政四年〔1857〕版）の引用書目には、『活人事証方』と『活人事証方後集』の二冊があげられている。真斎がこの時期に当時の「新出医方書」（『観聚方要補』安政版刊行委員会編『観聚方要補』〔安政版〕解説、医聖社、平成二十五年）の一つである『活人事証方』に接しているのは驚くべきことである。

◎・I. —【C】・「内因病」【虚劳】【虚劳瘵疾】【虚劳】◎

◇・「名家方選之部【C】」・・・・・・（No.57～58）・◇

▼『真斎聚方』「名家方選之部【C】」の処方群（No.57～58）

における『名家方選』三部作〔「内因病」【虚劳】など〕

からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真斎聚方』「名家方選之部【C】」 / 【出典】（『名家方選』
の処方名） / 三部作より）

- ①○ 乾坤丸（No.57）「四味」・・・・・・『名家方選』
「内因病」【虚劳】（p.21）
- ②○ 治劳咳方（No.57）・・・・・・『名家方選』
「内因病」【虚劳】（p.21）
- ③○ 朗明湯（No.57）（九味）・・・・・・『名家方選』
「内因病」【虚劳】（p.21）
- ④○ 七宝散（No.57）（七味）・・・・・・『名家方選』
「内因病」【虚劳】（p.21）
- ⑤○ 神授丸（No.57）（八味）・・・・・・『名家方選』
「内因病」【虚劳】（p.21）
- ⑥○ 治劳瘵方（No.57）（一味）・・・・・・『名家方選三編』
「内因病」【虚劳瘵疾】（No.53）

- ⑦○ 鶴鶴劑 (No.57) (七味) 『名家方選三編』
「内因病」【虚勞瘵疾】 (No.53)
- ⑧○ 下伝尸虫方 (No.58) (三味) 『名家方選三編』
「内因病」【虚勞瘵疾】 (No.54)
- ⑨○ 治伝尸勞瘵方 (No.58) 『名家方選三編』
「内因病」【虚勞瘵疾】 (No.54)
- ⑩○ 又方 (No.58) (六味) 『名家方選三編』
「内因病」【虚勞瘵疾】 (No.54)
- ⑪○ 煎劑方 (No.58) (七味) 『名家方選三編』
「内因病」【虚勞瘵疾】 (No.55)
- ⑫○ 治勞瘵初発者方 (No.58) (一味) 『続名家方選』
「内因病」【虚勞】 (p.82)
- ⑬○ 下瘵虫方 (No.58) (四味) 『続名家方選』
「内因病」【虚勞】 (p.82)
- ⑭○ 疳勞丸 (No.58) (三味) 『続名家方選』
「内因病」【虚勞】 (p.83)
- ⑮○ 癩肝丸 (No.58) (四味) 『続名家方選』
「内因病」【虚勞】 (p.83)
- ⑯○ 治遺精 . . . 心煩熱等症方 (No.58) (九味)
. 『続名家方選』 「内因病」【虚勞】 (p.83)

●・【考察8】・●

以上においても、『名家方選』三部作の「内因病」【虚勞】などの項目からすべての処方をそのままの内容で記載していることがわかる。

ここでのテーマは、前出のⅠ.－〔7〕などのテーマを受けての記載であろう。

◎・Ⅰ.－〔8〕・◎

▼〔8〕・「No.59～61」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

-
- ①○ 白扁豆散 (No.59) (七味) 「本事」〔普濟本事方〕
・『普濟本事方』(巻五)「【衄血勞瘵吐血咯血】」の項からの記載。
- ②○ 千金 五味子湯 (No.59) (九味) 「千金」〔千金要方〕
- ③○ 外台 五味子湯 (No.59) (七味) 「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』（卷十）【肺氣不足・・霜雪方】の項からの記載である。

④○ 千金 竹筴湯 (No.59) (九味)「千金」

⑤○ 上焦熱膈湯 (No.59) (四味)「外台」

⑥○ 補肺湯 (No.59) (十四味)「千金」

⑦○ 一方 補肺湯 (No.60) (八味)「千金」

⑧○ 千金 犀角地黄湯 (No.60) (四味)「千金」

⑨○ 回春 犀角地黄湯 (No.60) (六味) . . .「回春」〔万病回春〕
・『万病回春』（卷四）【失血】の項からの記載である。

⑩○ 麦門冬湯 (No.60) (七味)「千金」

⑪○ 竹葉湯 (No.60) (九味)「外台」

⑫○ 神授散 (No.60) (二味)◎「魏氏家藏方」

⑬○ 赤小豆当归散 (No.60) (二味)「金匱」〔金匱要略〕

・『金匱要略』「百合狐惑・・第三」および「驚悸吐衄下血・・治十六」からの記載である。

⑭○ 帰脾湯 (No.60) (十味)「済生」〔嚴氏済生方〕

・『嚴氏済生方』（卷三）【健忘論治】の項にある処方であるが、主治文などが一致していない。むしろ『古今方彙』の内容とほとんど一致しているので、『古今方彙』からの孫引きであろうか。末尾の「本方無当遠薛立齋加之」の文も『古今方彙』にある。

しかし、『古今方彙』の出典には「済生」とあるが、その主治文の末尾に「薛」とある。したがって、『古今方彙』における主治文は『薛立齋十六種』からの引用である。真齋は、他でも『薛立齋十六種』からの記載をしているので、おそらく『薛立齋十六種』によるものと考えるのが妥当であろう。

・末尾に「又加・・加味帰脾湯・・」の文あり。

⑮○ 治卒吐血及衄血主之方 (No.61) (六味)「千金」

⑯○ 大便出血及口鼻皆血出血上心・・致之方 (No.61) (六味)
.「千金」

⑰○ 外台 当归湯 (No.61) (六味)「外台」

・『外台秘要』（卷三十三）【妊娠随月数・・将息方】の項からの記載である。

⑱○ 麻子湯 (No.61) (九味)「千金」

⑲○ 本事方 香附子湯 (No.61) (二味) . . .「本事方」〔普济本事方〕

ここでも考証の範囲の処方については、ほぼ原文どおりの記載である。ここでのテーマは、【衄血勞瘵吐血咯血】
【失血】などである。

◎・I. — [D] ・「内因病」【血証】「上部病」【吐血衄血】◎

◇・「名家方選之部 [D] 」・・・・・・ (No.61～62) ・◇

▼ 『真齋聚方』 「名家方選之部 [D] 」の処方群 (No.61～62)

における『名家方選』三部作〔「内因病」【血証】、「上部病」
【吐血衄血】〕からの処方群について——その「出典」の考証と
考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』「名家方選之部 [D] 」 の処方名〕	／	【出典】（『名家方選』 三部作より）
-------------------------------	---	-----------------------

①○ 三奇丸 (No.61) (六味)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.83)

②○ 花蘂石散 (No.61) (五味)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.83)

③○ 三灰散 (No.61) (三味)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.84)

④○ 止衄妙方 (No.61)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.84)

⑤○ 治金瘡血不正者方 (No.61)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.84)

⑥○ 又方 (No.61) (一味)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.84)

⑦○ 治諸血症方 (No.61)・・・・・・『続名家方選』

「内因病」【血証】 (p.84)

⑧○ 治吐血衄血方 (No.61) (二味)・・・・『名家方選三編』

「上部病」【吐血衄血】 (No.29)

⑨○ 又方 (No.61) (一味)・・・・・・『名家方選三編』

「上部病」【吐血衄血】 (No.30)

⑩○ 治吐血方 (No.61) (二味) 『名家方選三編』

「上部病」【吐血】 (No.30)

⑪○ 治衄血方 (No.62) (二味) 『名家方選三編』

「上部病」【吐血】 (No.30)

⑫○ 又方 (No.62) (二味) 『名家方選三編』

「上部病」【吐血】 (No.30)

⑬○ 又方 (No.62) (二味) 『名家方選三編』

「上部病」【吐血】 (No.30)

●・【考察10】・●

以上においても、『名家方選』三部作の「内因病」【血証】、「上部病」【吐血】の項目からすべての処方をそのままの内容で記載していることがわかる。ここでのテーマは、前出のⅠ.－〔8〕のテーマを受けての記載であることがわかる。

◎・Ⅰ.－〔9〕・◎

▼〔9〕・「No.62～62」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

①○ 胃風湯 (No.62) (七味) 「局方」〔和剂局方〕

・『和剂局方』(巻六)【治瀉痢】の項からの記載である。

・服薬文の後半部分の省略あり。

②○ 胃苓湯 (No.62) (十味) 「回春」〔万病回春〕

・『万病回春』(巻三)【泄瀉】の項からの記載である。

③○ 平胃散 (No.62) (四味) 「局方」

・『和剂局方』(巻三)【治一切氣】の項からの記載である。

・薬物の分量には異動あり。

④○ 香砂平胃散 (No.63) (九味) 「回春」

・『万病回春』(巻二)【飲食】の項からの記載である。

⑤○ 香砂養胃湯 (No.63) (十一味) 「回春」

・『万病回春』(巻二)【飲食】の項からの記載である。

⑥○ 六君子湯 (No.63) (五味) ◎「楊氏」〔楊氏家藏方〕

・『楊氏家藏方』(巻六)【脾胃方六十一道】の項(六味)からの記載であるが、「陳皮」が欠落して「五味」となっている。

・末尾に「一方無茯苓甘又一方無枳實甘」と、真斎のものと思われる文がある。

⑦○ 四君子湯 (No.63) (四味) 「局方」

・『和剂局方』(巻三)【治一切氣】の項からの記載である。

- ・服薬文の後半部分省略あり。
- ・末尾に「薛立齋四君子湯加夏陳等分名六君子湯・・・」と、
真齋のものと思われる文がある。
- ⑧○ 香砂六君子湯 (No.63) (八味)・・・・「正宗」〔外科正宗〕
・『外科正宗』(巻一)【潰瘍主治方】の項からの記載である。
- ⑨○ 葛花解醒湯 (No.63) (五味)・・・・◎「弁惑」〔弁惑論〕
・主治文が原文と一致しない。『古今方彙』の主治文に一致している。
・薬物は、原文と『古今方彙』ともに十三味であるが、ここでは「五味」である。転記ミスにしては欠落薬物が多すぎる。
- ⑩○ 行気香蘇散 (No.63) (九味)・・・・◎「古今医鑑」
- ⑪○ 〔治〕夏月暴冷・・・(No.63) (十一味)・・・「千金」〔千金要方〕
・『千金要方』(巻十五下)【脾臟下】「冷痢第八」からの記載である。
- ⑫○ 豆附円 (No.63) (七味)・・・・「局方」
・『和剂局方』(巻六)【治瀉痢】の項からの記載である。
・服薬文の後半部分の省略あり。
- ⑬○ 禹餘糧円 (No.63) (八味)・・・・「済生」〔嚴氏済生方〕
・『嚴氏済生方』(巻五)【泄瀉論治】の項からの記載である。
- ⑭○ 啓脾丸 (No.63) (九味)・・・・「回春」
・『万病回春』(巻七、小児科)【泄瀉】の項からの記載である。
- ⑮○ 厚朴湯 (No.64) (五味)・・・・「聖済」〔聖済総録〕
・『聖済総録』(巻四十六)【脾臟門】「脾胃不和・・・」の項からの記載である。
- ⑯○ 四柱散 (No.64) (四味)・・・・「局方」
・『和剂局方』(巻三)【治一切氣】の項からの記載である。
・主治文、服薬文の一部省略あり。
- ⑰○ 錢氏 白朮散 (No.64) (七味)・・・・「回春」
・『万病回春』(巻七、小児科)【小兒雜病】の項にある処方であるが、主治文・服薬文が一致しない。
・原文は「八味」であるが、「丁香」が欠落している。
- ⑱○ 升陽除湿湯 (No.64) (十一味)・・・・「蘭室」〔蘭室秘蔵〕
・『蘭室秘蔵』(巻下)【瀉痢門】からの記載である。
- ⑲○ 加味四苓散 (No.64) (十一味)・・・・「回春」
・『万病回春』(巻三)【泄瀉】からの記載である。原文の処方名は、「四苓散」である。

●・【考察11】・●

服薬文の後半部分の省略や主治文・服薬文が一致しないものがあるが、それぞれの項目に示したとおりである。
ここでのテーマは、【泄瀉】【飲食】などである。

◎・I. — [E] 「外因病」 【泄瀉】 ◎

◇・「名家方選之部 [E] 」 (No.64) ・◇

▼ 『真齋聚方』 「名家方選之部 [E] 」 の処方群 (No.64)

における『名家方選』三部作〔「外因病」【泄瀉】〕から
の処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』 「名家方選之部 [E] 」 / 【出典】 (『名家方選』
の処方名) / 三部作より)

①○ 益中散 (No.64) (六味) 『続名家方選』

「外因病」 【泄瀉】 (p.82)

②○ 良姜散 (No.64) (三味) 『続名家方選』

「外因病」 【泄瀉】 (p.82)

・「主治文」が欠落している。

●・【考察12】・●

「外因病」 【泄瀉】 の項目は、『名家方選』三部作の中で、『続名家
選』のみにあり、上記の二処方ですべてである。

ここでのテーマは、前出の I. — [9] のテーマを受けての記載であることがわかる。

◎・I. — [10] ・◎

▼ [10] ・「No.65～67」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

①○ 大青湯 (No.65) (五味) 「聖濟」 【聖濟総録】

②○ 参連湯 (No.65) (二味) 「回春」 【万病回春】

- ・『万病回春』（巻三）【痢疾】からの記載である。
- ③○ 安石榴湯（No.65）（四味）・・・「外台」〔外台秘要〕
 - ・『外台秘要』（巻二十五）【数十年痢方】の項からの記載である。
- ④○ 調中湯（No.65）（七味）・・・「大全」〔婦人大全良方〕
 - ・『婦人大全良方』（巻二十二）【産後腹痛及瀉痢方論第十一】からの記載である。
- ⑤○ 断痢湯（No.66）（九味）・・・「千金」〔千金要方〕
- ⑥○ 千金 治三十年久痢不正方（No.66）（六味）・・・「千金」
- ⑦○ 回春 芍薬湯（No.66）（七味）・・・「回春」
 - ・『万病回春』（巻三）【痢疾】からの記載であるが、原文の「升麻」がここでは「甘草」となっている。
- ⑧○ 古今録驗 白頭翁湯（No.66）（七味）・・・「外台」
 - ・『外台秘要』（巻二十五）【冷痢方】の項からの記載である。
- ⑨○ 温疫論 芍薬湯（No.66）（五味）・・・◎〔温疫論〕
 - ・『温疫論』（巻一）【戦汗】の項からの記載である。
- ⑩○ 訶梨勒散（No.66）（一味）・・・「金匱」〔金匱要略〕
 - ・『金匱要略』「嘔吐・証治第十七」からの記載である。
- ⑪○ 外台 必効療痢兼渴方（No.66）（二味）・・・「外台」
 - ・『外台秘要』（巻二十五）【痢兼渴方】の項からの記載である。
- ⑫○ 外台 黄芩湯（No.66）（六味）・・・「外台」
- ⑬○ 阿膠散（No.66）（五味）・・・「▲」
 - ・末尾に「千金駐車円無芍薬・赤石脂」と、真斎のものと思われる文あり。
- ⑭○ 局方 痢聖散子（No.66）（七味）・・・「局方」〔和剂局方〕
 - ・『和剂局方』（巻六）【治瀉痢】の項からの記載である。
 - ・服薬文の後半部分の省略あり。
- ⑮○ 温脾湯（No.66）（五味）・・・「千金」
- ⑯○ 〔純陽〕真人養臟湯（No.66）（十味）・・・「局方」
 - ・『和剂局方』（巻六）【治瀉痢】の項からの記載である。
 - ・服薬文の後半部分の省略あり。
- ⑰○ 紫参湯（No.66）（二味）・・・「▲」〔『金匱要略』〕
 - ・『金匱要略』「嘔吐・証治第十七」からの記載である。
- ⑱○ 当帰導気湯（No.67）（九味）・・・「準繩」〔証治準繩〕
- ⑲○ 外台 赤石脂湯（No.67）（七味）・・・「外台」
 - ・『外台秘要』（巻二十五）【膿血痢方】の項からの記載である。

原文では「八味」である。

●・【考察13】・●

服薬文の後半部分の省略や一部に薬物の記述の異動がみられる。

ここでのテーマは、【痢疾】【治瀉痢】【膿血痢】などである。

◎・I. — [F] 「外因病」 【痢】 【痢疾】 ・◎

◇・「名家方選之部 [F] 」 (No.67) ・◇

▼ 『真斎聚方』 「名家方選之部 [F] 」 の処方群 (No.67)

における『名家方選』三部作 [「外因病」 【痢】] から

の処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

[『真斎聚方』 「名家方選之部 [F] 」 / 【出典】 (『名家方選』
の処方名) / 三部作より)

- ①○ 療痢疾一方 (No.67) (五味) 『続名家方選』
「外因病」 【痢】 (p.81)
- ②○ 療禁口痢方 (No.67) (一味) 『続名家方選』
「外因病」 【痢】 (p.81)
- ③○ 如神丸 (No.67) (六味) 『名家方選』
「外因病」 【痢疾】 (p.20)
- ④○ 治痢疾後重方 (二味) 『名家方選』
「外因病」 【痢疾】 (p.20)
- ⑤○ 如神錠 (No.67) (三味) 『名家方選三編』
「外因病」 【痢疾】 (No.50)
- ⑥○ 治痢方 (No.67) (一味) 『名家方選三編』
「外因病」 【痢疾】 (No.51)
- ⑦○ 又方 (No.67) (二味) 『名家方選三編』
「外因病」 【痢疾】 (No.51)
- ⑧○ 治痢疾裏急後重不止者 (No.67) (三味) 『名家方選三編』

「外因病」【痢疾】(No.51)

・「甘草」は、上記の①など他のところでは「甘」と略記されているが、ここでは珍しく「草」とある。

・「按牛扁之説不穩閩牛兒也」と、真斎による按文がある。

・「甘草」の次に「牛扁」とあるが、真斎の按文は、これについてのものである。「牛扁」とは、ゲンノショウコのこと。

・小野蘭山『本草綱目啓蒙』（巻十三）「牛扁」の項に「コレ救荒本草ノ牻牛兒、一名閩牛兒ノ一種ナリ」（『『本草綱目啓蒙』2、東洋文庫536、平凡社）とある。真斎の按文は、この『本草綱目啓蒙』の記述をふまえたものである。

⑨〇 又方(No.67) (八味) 『名家方選三編』

「外因病」【痢疾】(No.51)

⑩〇 治噤口痢不納水藥飲食入口則

吐出嘔不止無奈何者方(No.67) (五味) . . . 『名家方選三編』

「外因病」【痢疾】(No.51)

●・【考察14】・●

以上においても、『名家方選』三部作の「外因病」【痢疾】などの項目からすべての処方をそのままの内容で記載していることがわかる。

ここでのテーマは、前出のⅠ-〔10〕のテーマを受けての記載であることがわかる。

小野蘭山の『本草綱目啓蒙』は、江戸医学館における蘭山の講義を筆録して刊行されたものである。ちなみに、蘭山の肖像画を描いた谷文晁は、真斎の父・川村寿庵の親友であり、寿庵編『日本名山図会』の原画を描いている。

◎・むすび・◎

以上、『真斎聚方』のNo.41～No.67の処方群の「出典」について考証した。『名家方選』三部作の処方群とその前段の処方群(Ⅰ-〔2〕～〔10〕)との関係性については、前号の「中風」の項のようにならずしも明解でないところもあるが、おおむね相互に関連している処方群が記載されていることがわかった。その他、上記の「考察」において述べていることは、ここには再述しない。

なお、上記のⅠ-〔2〕、Ⅰ-〔3〕などの区分は、原文において改頁ないしは改丁のある部分にしたがっている。

真斎の「筆写・抄出方法」については、これまでも見てきたように、基本的には原文に忠実であることがわかる。それは、『観聚方要補』などにみられる江戸医学館の多紀氏と同様に原典から直接引用し、出典を明記する方法と酷似しているもので、真斎の方法の背景には、そのような考証学派の影響が見られるといえよう。真斎の按文について言えば、『真斎方記』や『真斎謄筆』と比較すると極めて少なく、短文のものが多い。

『名家方選』三部作の処方群について言えば、各項目のすべての処方を原文どおりに記載していることが、以上においても明らかである。この調子で行くと、『真斎聚方』から『名家方選』三部作の処方方は、すべて復元できるような状況にあるような状況である。

したがって、『真斎謄筆』と稿本『自然真営道』との内容的同一性について考えるとき、稿本『自然真営道』の復元性もまた極めて高いものがあるといえるのではないだろうか。

『真斎聚方』における真斎の記述は、例えば主治文などは『観聚方要補』における記述よりも詳細なところが多い。それらの項目名〔目次〕を明示して書物として刊行できるように整理していたならば、おそらく現代にも通ずるところの有用な文献となったことであろう。

もともとそうした作業は、弟子や子息たちのすることが多いものである。真斎はそのような弟子などに恵まれなかったのであろうか。

▼・I.-〔1〕～I.-〔10〕の処方総数は、157処方である。▼

〔2018年10月25日、PHN（思想・人間・自然）、第34号、PHNの会発行〕

〔2018年10月25日、和田耕作（C）、無断転載厳禁〕
